

平成29年度日本セラミックス協会 資源・環境関連材料部会見学会  
「日本遺産（日本磁器のふるさと肥前）の陶磁器製造技術に触れる」

今年度の資源・環境関連材料部会の見学会は、平成29年11月16日(木)、17日(金)の2日間、佐賀県有田町、嬉野市、長崎県波佐見町の企業および史跡を訪問して行われた。参加者は安盛部会長をはじめ18名であった。

1日目、一行はJR有田駅に集合し、貸し切りバスで、最初の見学先である(株)香蘭社の碍子工場を訪問した。2班に分かれ、碍子の原料、成形工程、焼成工程など一連の製造工程、さらには碍子の耐電圧試験設備も見学させていただいた。また、同社の陶磁器製品のショールームも見学させていただき、歴史的に価値のある陶磁器を拝見することができた。

次に一行は、1616年に磁器原料が発見されたとされる泉山磁石場を訪れた。普段は入ることのできないエリアに入り、学芸員の方からやきものの歴史、陶器・磁器の歴史的・地理的な視点での分類、九州における磁器文化の位置づけなどについて説明いただいた。特別に坑道内へ立ち入らせていただき、貴重な体験をすることができた。非常に寒い中での見学であったが、活発な質疑がなされ、有意義な見学となった。

波佐見町へ移動し、ブリスヴィラ波佐見に宿泊した。懇親会により親睦を深めた。

2日目は、まず佐賀県嬉野市にある(有)瀏野陶磁器原料を訪問した。肥前で一般的に使用している天草陶石から作られる陶土の製造を見学した。天草陶石を粉砕するスタンパーや粘土分を選別する水簸、さらにはフィルタープレスなど、設備が実際に動いているところを見学させていただいた。肥前特有の土づくりを見学するよい経験となった。

次に一行は波佐見町に戻り、素焼生地を製造している(有)ニシトウを見学した。ローラーマシンにより次々と生地が成形されていく様子や連続炉による素焼き工程を見学させていただいた。質疑応答ではマグカップなどの把手の作り方に及び、鑄込み型を見せていただきながら丁寧な説明をいただいた。陶磁器製品を大量に製造するための生産技術を分かりやすく学ぶことができた。

昼食後、一行は中尾上登窯跡を訪れ、学芸員から窯跡の意義などについて説明いただいた。登窯跡は全長160mもある非常に大きな窯であり、世界第2位の大きさの窯跡である。波佐見は、これらの大きな窯を用いることで、江戸時代に安価な磁器を全国に流通させていた。窯跡を下から上まで歩きその大きさを体感することで、当時の荷運びなどの大変さなどを垣間見ることができた。

見学の最後は、波佐見町内の陶磁器製造企業を訪ね、陶磁器の企画から製造までの一貫生産について見学させていただいた。製品コンセプトから、それを実際に製造するための技術について説明いただいた。最後に、ショールームを見学し、参加された皆様が気に入った商品を手に取っていました。

2日間の見学会は盛りだくさんの内容であったが、計画通りに進めることができ、見学先ならびに参加いただいた皆様に感謝いたします。



見学会の様子（中尾上登窯跡にて）